

## 「四国地震防災基本戦略～来たるべき巨大地震に備えて～」の特徴

四国地震防災基本戦略は、巨大な地震による広域的大災害に対し、四国地域の实情に即した予防対策や応急・復旧対策等について重点的・戦略的に取り組むべき事項を示すものである。

### 基本方針

人の命を最優先に考え、従来から取り組んできた施設整備等を着実に進めるとともに、その規模を超える外力が発生した場合でも住民生活や地域経済への影響を最小限に食い止めるために、減災の考え方を重視し、ハード施策とソフト施策を総合的に取り組むことを基本とする。

#### ◎四国の産官学が一体となって策定

国の機関や地方公共団体のみならず、学識経験者や地元経済界など47機関が認識を共有し、四国が一体となって取り組むべき事項を示した。

#### ◎役割分担の明確化

実効性の高い取組とするため、共通の基本方針のもと地域の民間企業や住民等との連携も含め、各機関の適切な役割分担により対策を実施する。

#### ◎巨大地震に備えた仕組みや体制などの早期構築

四国において想定される課題に対応するための仕組みや体制などを事前に構築する。

# 防災・減災を目指した地域づくり、まちづくりの推進

(基本戦略 2.1、2.2)

## 防災拠点にも活用される施設整備



多目的広場（ヘリポート）

防災トイレ

## 庁舎・学校・病院等の再検証

構造・配置等見直しによる安全性の向上

## 密集市街地におけるオープンスペースの確保



## 災害に強い地域づくり、まちづくりのその他施策

- ・住宅、建築物の不燃化
- ・耐震化防火水槽
- ・自然エネルギーの導入による分散型エネルギー整備
- ・災害に強い通信網の整備 など

## 安全な区域への誘導

・高台への移転など津波被災想定区域内から安全な区域への定住の誘導

信頼性の高い緊急輸送路の確保



標識



避難階段



津波避難ビル

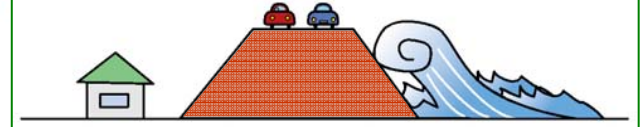
海岸防災林の検討

津波避難ビルを兼用した建築物

漂流物防止施設

## 副次的効果を考慮した“多重防御”

盛土構造の道路を防潮堤や避難場所として活用



構造物の信頼性向上（各種施設の耐震化・液状化対策等）

堤防、岸壁、橋梁、公共施設等

## 巨大地震・津波への減災対策

より粘り強い構造の防波堤、防潮堤等

# 「命の道」となる緊急輸送路の確保とともに、迅速な応急対策のための 啓開・復旧オペレーション計画を事前に策定

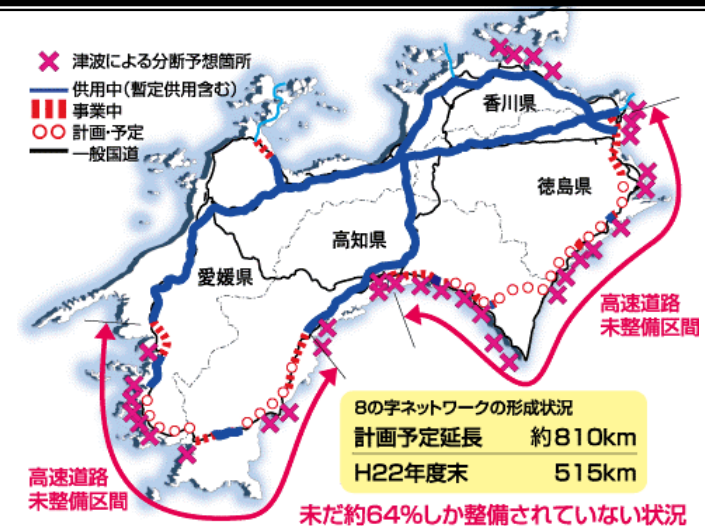
(基本戦略 2.2、3.2)

## ◎緊急輸送路（信頼性の高い交通ネットワーク）の確保

- “四国8の字ネットワーク” の整備促進  
ミッシングリンク（高速道路未整備区間） の早期解消
- 高知自動車道 の信頼性の向上
- 瀬戸内側から太平洋側へのアクセス の信頼性の向上  
 （R32、33、194、195、197、381、  
 これらを補完するR193、439、440、441等）
- 港湾及び空港の信頼性の向上

## ◎啓開・復旧オペレーション計画の策定

- ヘリコプター等による津波・土砂災害発生時の 被災状況の  
情報収集体制の整備 や 情報共有体制の確立
- 道路啓開・復旧オペレーションイメージ
  - STEP 1  
 比較的被害が少ない 瀬戸内側の横軸ライン を確保
  - STEP 2  
 横軸ラインから 太平洋沿岸地域へ乗り込むための  
縦軸ライン の確保
  - STEP 3  
 縦軸ラインから 太平洋沿岸地域のR55～R56  
の沿岸ライン を確保
- 海・空からの緊急輸送ルート を早期に確保するため、施設の  
 応急復旧体制を事前に確立



**津波による分断予想箇所**  
 ～津波による分断予想箇所は、ミッシングリンクに集中～



**道路啓開・復旧オペレーションイメージ**  
 ～瀬戸内側から太平洋側へ～

# 確実な避難を達成するための総合対策を早期に実施

(基本戦略 2.3)

◎ 「減災」の考え方をもとに、各機関等が共通認識、適切な役割分担により確実な避難を達成するための総合対策（ハード整備・ソフト対策）を早期に実施する。

## 総合対策

### ハード整備

#### 避難行動につながる情報提供施設



・津波浸水想定区域標識



・GPS波浪計

#### 避難路・避難施設



・避難階段の整備  
・津波避難ビル指定の促進



・津波避難タワーの整備

#### 防災情報伝達施設等の整備

- ・防災行政無線等の整備
- ・ソーシャルメディア等の民間システムの活用
- ・無線LANシステムや衛星インターネット等の整備

### ソフト対策

防災意識改革と防災教育・訓練の実施

ハザードマップの充実

津波観測施設の充実と  
津波警報等のリアルタイム情報の提供

# 広域連携、支援を迅速に立ち上げ、円滑に実施するための仕組みや体制などの早期構築

(基本戦略 3.1、3.3~3.6)

- ◎広域的な支援の受け入れが可能となる防災拠点を整備するとともに、公園などの整備にあたっては、災害時にも活用できるように整備を図る。
- ◎円滑な応急対策、復旧活動等を進めるための体制の強化や事前構築を図る。
- ◎食料、飲料水、生活必需品等の緊急物資や必要な資機材が速やかに調達できるよう、輸送戦略を早期に策定する。
- ◎長期浸水、災害廃棄物の発生を想定した処理計画、連携体制を整備する。
- ◎巨大地震の特殊性を十分に考慮し、迅速かつ的確な応急対策を目的とした広域のかつより実践的な総合防災訓練を実施する。

